

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200412
法人名	社会福祉法人厚仁会
事業所名	グループホームさぬき富士
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1 (電話)0877-21-1000

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価決定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年1月18日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(平成20年8月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	75歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団厚仁会 厚仁病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山のふもと付近に位置しており、玄関前には利用者や職員で育てた花や野菜、果物(無農薬)がたくさんあり、ホームに入りやすい感じを受ける。ホーム内では適正な人員配置や、利用者が安心、安全に過ごせることが第一とした指針を職員と共有し、様々な環境工夫やケア体制が確立されており、利用者、職員ともに笑顔で楽しい様子である。ホーム独自の理念を実践している管理者、職員の意気込みや日々の努力が感じられた。引き続き、併設施設の協力、連携を保ちながら利用者がその人らしく居心地よく暮らしていけるよう、地域密着型のホームとしてさらに具体的実践を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義を理解し改善に取り組んでいる。前回課題の今以上に地域との関わりに対し、地域の婦人会の紹介で月一回、福祉ママが来られ誕生日会を開催しホットケーキなどを作ったり、小学生が来て楽しく交流している。地理的に利用者が頻繁に出かけるのは難しいが、自治会に加入し地元の行事や地区の老人大学などに参加したり地域から孤立しないよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価に記入し、運営者、管理者、計画作成担当者がまとめた。改善課題は可能な部分から取り組んでいる。運営推進会議で職員から他のグループホームとの交流希望があり、同市内のグループホームと交流するなど、評価を活かし具体的に改善するなど前向きな行動が見受けられる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に一回運営推進会議を開催し、報告だけで終わらないよう話し合いのできる雰囲気づくりし、参加者から意見や提案が出されサービスの向上に活かせるよう努めている。漏水対策について話し合いがなされた後は、意見によりホーム近隣に井戸掘りが実施され無事工事も完成し、今以上に水の確保ができるようになるなど、運営推進会議の意見を活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>行事や面会時に利用者の状況をお知らせや、ホーム便り「ほんのりさぬき富士」でもお知らせしている。また、遠方の家族に対し、個別に利用者の写真にコメントを添えて郵送するなど家族の不安軽減に対応している。家族の面会時に積極的に声かけや意見を傾聴し、運営推進会議で、利用者、家族の意見を聞き、参加者が意見について検討し、運営に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の婦人会などの紹介で月に一回、福祉ママが来られ誕生日会など開催したり、地元の小学生が来たりして楽しく交流している。地理的に、利用者の方々が頻繁に出かけるのは難しい状況であるが、自治会に加入し可能な限り地元の行事や地区の老人大学などに参加したり、地域から孤立しないよう努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの利用者が安全・安心に日常生活が送れるよう、「笑顔、優しさ、思いやり」を独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に、理念を掲示し、日々の申し送りなどで確認し合いながら管理者、職員が理念を理解し実践に日々取り組んでいる。実践の中で理念に沿って実践できていないスタッフに関してはお互い呼びかけをしており、職員も自然体の笑顔で対応している。一日一日、利用者が行いたいことや好きなことができればと、利用者のペースに合わせながら声かけ傾聴を行っている。	○	ホームの理念を勉強会などでの議題にあげ、話し合いながら、さらに理念の具体的な実践が今後もできるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の婦人会などの紹介で月1回、福祉ママが来られ誕生会などを開催しホットケーキなど作ったり、地元の小学生が来て楽しく交流している。地理的に、利用者の方々が頻繁に出かけるのは難しいが、自治会に参加し可能な限りで地元の行事や老人大学などに参加し、地域から孤立しないよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に記入し、運営者、管理者、計画作成担当者がまとめ、改善課題は可能な部分から取り組んでいる。運営推進会議で職員から他のグループホームとも交流希望が出され、同市内のグループホームと交流しており、評価を活かし具体的に改善するなど前向きな行動が見受けられる。	○	職員全員が自己評価記入に取り組んでいるので、今後は勉強会などで自己評価や外部評価を議題に話し合い、さらにホームがよくなるよう具体的に評価を活かし改善していくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、報告だけで終わらないよう話し合いのできる雰囲気づくりをし、意見や提案が出ており、サービスの向上に活かせるよう努めている。湧水対策について話し合いがあった後、意見によりホーム近隣に井戸掘りが実施され無事工事も完成し、今以上に水の確保ができるようになるなど、運営推進会議の意見が活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム計画作成担当者連絡会で市職員、市内のグループホームの職員と2か月に一回研修などを行い、困難事例などを検討(個人情報保護を遵守)している。また、必要時、市の担当者に相談し情報提供などを受け連携しており、グループホームの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や面会時にその都度、利用者の生活の様子や健康状態をお知らせしている。また、年に3回程度、ホーム便り「ほんのりさぬき富士」を発行(カラー)し、お知らせをしている。遠方などの事情でなかなか来れない家族に対しては、個別に利用者の様子の写真(カラー)にコメントを添えて郵送している。必要に応じて電話連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見などが出やすいように積極的に声かけや傾聴している。運営推進会議でも、利用者、家族などの意見を聞き、市職員、管理者、職員が問題について検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人自体が法人内異動に関して適正配置に努めている。開設以来職員の異動は最小限にとどめ、馴染みの関係がつかれるように努め、開設以来の職員が多く残っており利用者、家族との関係も年々深まっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトなども配慮し可能な限り外部研修にも参加しており、申し送り時や勉強会で伝達している。運営者などで管理者、職員の研修計画は作成しており、認知症介護実践研修は研修計画に沿って受講できている。次世代のリーダーになるべく養成研修や法人内での相互研修にも参加し、研鑽を深めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主導によるネットワークづくりに積極的に参加している。勉強会や施設訪問にも参加し、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族などの面談を実施し利用者の希望に沿った方針を決められている。ショートステイ(併設施設)利用時に、何度かホームへ訪問していただいたり、入居初期段階は、家族の協力を得て、面会、外出の機会を多くつくって、徐々に馴染むことができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	上手く馴染みの関係ができるように、職員は利用者と一緒に過ごすうちに喜怒哀楽をともにしている。利用者の方々から知恵などを色々教わったり、食事後の食器洗いなどもお互いが注意し合うなど支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの行動や会話、意見に着目し職員の洞察力を活かし、本人の希望を取り入れながら支援している。踊りが好きな利用者は着物を着て踊ったり、カラオケの好きな方は楽しく歌われている。意思表示が難しい利用者の方は、職員間でよく話し合い、家族の希望も聴きながらよりよい支援ができるよう努めている。また、一人ひとりの状態を把握して日々記録してファイリングしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に、利用者の立場で本人、家族、医師、看護師などの意見を取り入れて、本人が生きがいをもって過ごせるように、介護計画の作成をしている。医療関係者(併設)とは連絡ノートを活用し、状態の確認及び変化、対応などについて情報共有に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のモニタリング(記録に残してファイリングしている)を利用者担当職員が実施し、定期的に計画を見直している。また、必要に応じてその都度、本人、家族、関係者と話し合っ、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望を聞き訪問歯科や往診を利用できるようにしている。また、併設のデイサービスやケアハウスなどへ訪問し様々な行事に参加している。必要な利用者の方には併設の特殊浴槽を使用したり柔軟な支援をしている。交流ホームを地域の方の交流の場として活用し生花、英会話教室などを開催している。	○	本人や家族の状況、要望に応じて、さらに併設施設などの多機能性を活かした柔軟な支援を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望する医師、病院での適切な医療を受けることができるよう、連絡調整している。利用者・家族アンケートの中でもかかりつけ医師のいる病院との連携が抜群によいと回答していた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人、家族の意向に沿った対応ができるよう「ターミナル看取りに関する指針(マニュアル)」を作成し、職員全員がその方針を共有し、いつでも相談に応じられるよう医師や看護師とも連携し、話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを守り、利用者へ合った声かけ、傾聴をするよう心掛けている。記録している個人情報は事務室の施錠した戸棚に保管し、個人情報保護に徹底している。利用者の居室の戸には本人、家族の了解を得て氏名を表示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や希望を取り入れながら支援している。例えば買物に行きたい希望があれば併設のケアハウスの送迎車を利用し職員が付き添って行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、食材を刻む、味噌汁の味見、配膳や食器洗い、台拭きなど一人ひとりができることを手伝ってもらっている。また、色鮮やかなランチョンマットが敷かれており食事が一番の楽しみとなっている。食事介助が必要な方へも柔軟に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の安全を一番に考え、入浴が楽しめるように声かけをしながら状態や希望に合わせて午前、午後どちらでも入浴ができるよう可能な限り柔軟に対応している。風呂場もきちんと掃除がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりの中で「何をしたいか」、「何ができるか」を職員は洞察しており、踊り好きな方には着物を着て歌に合わせて踊ったり、歌の好きな方、話し好きの方、それぞれに合わせて支援している。カラオケなどのレクリエーションでは利用者が元気に歌ってその場が盛り上がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設施設の方々と一緒にバスでショッピングに出かけたり、散歩、日光浴などその人に合わせた支援を日々実している。ホームのガーデニングでひまわりの種を植えて成長記録(日記)をつけていらっしゃる方もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常には玄関が開くとチャイムが鳴るように対応している。入居者の状態や食事・入浴介助などで職員の手が少なく対応困難と判断した場合には鍵をかけていることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて年に4回、入居者も一緒に避難訓練を行っている。また、災害時には地域の方々の協力があり、支援をお願いし、近隣の方々を加えた災害時の組織の連絡網や災害マニュアルを整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が食事の栄養管理をしている。また、水分が取りにくい方には、トロミアップやゼリー、寒天などを使用し工夫している。食事・水分量に関しては利用者ごとに記録しファイリングし摂取量の確認管理している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは玄関から見えないところにあり、利用者が落ち着いて集まれるような環境になっている。季節感を感じられるよう四季に応じて、置物や掲示物を変更している。また、自然の採光を取り入れているので、夏季は日差しがきついのですだれなどで調整しており、居心地よく過ごせるよう工夫している。トイレなどもきちんと掃除されており異臭は感じない。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談しながら、馴染みの箆笥や置物などを置いて、本人が落ち着いて居心地よく暮らせる生活空間となるよう努めている。</p>		